【授業科目】人間発達学　　Developmental　Humanics

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
別所 史子、大久保 仁司	１年次 前　期	選　択	1	１５	講　義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／人間発達学における主な発達理論を学習し、人間が生涯発達し続けるという意味を学ぶ。そして、人間を発達という視点から全体として理解し、ライフサイクルにおける各時期の身体・心理・社会的側面の特徴を学び、発達段階における健康や健康問題、看護について考える。 課題に対するフィードバック方法：課題レポート・リフレクションペーパーに対して、全体の傾向や疑問点について、適宜授業等でコメントする。授業内でフィードバックが難しい場合は、メール等で対応する。
実務経験に関する 授業内容	人間発達学に関する臨床経験をもつ教員が、人間のライフサイクルとしての発達、更に各時期の健康や健康上の問題について、視聴覚器材や経験を交えながら指導する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け看護を主体的に学び、人間として自己の成長に努め、専門職としてのキャリアの基礎を形成することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	① 人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を説明できる。 ② 発達理論の歴史とその変遷を知り、発達理論の概要を説明できる。 ③ 人間のライフサイクル（胎児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）の形態・機能的側面と心理・社会的側面の発達の特徴を説明できる。 ④ 人間発達の視点から各段階における健康問題や支援のあり方を説明できる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	第１回～8 回事前学習：各回において指定の教科書の単元に該当する箇所を事前に読み、疑問点を整理しておく。（各 2 時間） 第１回～8 回事後学習：授業で学んだことから関係する文献や書籍を読み、理解を深める。必要に応じて課題レポートを課す。（各 2 時間） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		
	第１回　人間と発達、発達理論とその歴史	別所
	第２回　胎児期・乳児期の心と身体	別所
	第３回　幼児期の心と身体（グループワーク）	別所
	第４回　学童期の心と身体	別所
	第５回　思春期・青年期の心と身体	別所
	第６回　成人期の心と身体①（グループワーク）	大久保
	第７回　成人期の心と身体②（発表）	大久保
	第８回　老年期の心と身体	大久保

評価方法 評価基準	定期試験 80%、レポートおよびグループワークへの取り組み 20%で総合的に評価する。		
教科書	服部祥子『生涯人間発達論　第 3 版』 医学書院	参考書等	講義の中で興味深い書籍、文献を紹介する。
学生への 助言等	人間に興味をもち、発達という視点から理論を学んでほしい。人間の発達過程にみられるさまざまな現象を理解するために多くの文献や書籍を読み、探求する学修をしてください。		